

宣 言

高知県立坂本龍馬記念館・現代龍馬学会は、平成二十一年四月の発足から十年を経過し、県内外から七十二一人が参加して第十一回研究発表会を開いた。テーマは「龍馬の生きた時代を考える」。社会のさまざまな場面で新しいことと旧態依然とした姿が交錯する中、龍馬とその時代に学び、人と人とのつながりの大切さを考えようとしたものだ。

特別講演は京都国立博物館上席研究員の宮川禎一さん。他に、県内の四人の研究者が日頃の研鑽に基づいた発表を行い、私たちは多くのことを学んだ。

坂本龍馬記念館のグレードアップとともに、県下至る所で龍馬の掲示が見られるようになってきた。ただ、子どもたちにとれくらい龍馬のことが正しく届いているのだろうか。龍馬が逝つて一五二年。戊辰戦争終結から一五〇年。私たちは龍馬らの生きた激動と変革の時代に学びつつ、子どもたちにも龍馬の生き方を語りながら、悔いの残らない道を確実に歩んでいきたいと思う。

二〇一九年五月二十五日

高知県立坂本龍馬記念館・現代龍馬学会

